

審議会等の議事の要旨（要点）

会議名称	立川市総合都市交通戦略協議会
開催日時	平成30年2月7日（水）午前10時～正午
開催場所	立川市役所 1階 101会議室
次第	<p>1. 開 会</p> <p>2. 議 事</p> <p>（1）立川市総合都市交通戦略 ～短期計画期間の中間年における整理～</p> <p>（2）立川市総合都市交通戦略の施策の進捗状況および評価指標</p> <p>3. その他</p> <p>4. 閉 会</p>
配布資料	<p>資料1 : 立川市総合都市交通戦略 ～短期計画期間の中間年における整理～</p> <p>資料2 : 立川市総合都市交通戦略 施策の進捗状況</p> <p>資料3 : 立川市総合都市交通戦略 成果指標</p> <p>資料4 : 施策一覧図</p> <p>参考資料1 : 立川市総合都市交通戦略協議会委員名簿</p> <p>参考資料2 : 立川市総合都市交通戦略協議会設置要綱</p>
出席者	<p>[委員]</p> <p>大森宣暁会長、岡村敏行副会長</p> <p>高橋智行委員、下出大介、石坂友則委員、原清委員、長田裕太郎委員、関達夫委員、竹島達也委員、田崎達久委員、村野信二委員、鈴木茂委員、伊藤正人委員、布施明委員</p> <p>[事務局]</p> <p>小倉秀夫（まちづくり部長）、志村秀己（基盤整備担当部長）、卯月寿一（都市計画課長）、浅見知明（交通対策課長）、平出賢一（道路課長）、野寺健男（工事課長）、守屋雅章（まちづくり推進課長）</p> <p>石堂修（交通企画係長）、淵上俊之（主査）</p> <p>松崎達矢（交通企画係）</p>
公開及び非公開	公開
傍聴者数	1人
会議結果	<p>1. 開 会</p> <p>2. 議 事</p> <p>（1）立川市総合都市交通戦略～短期計画期間の中間年における整理～について、事務局より説明を行い、質疑応答を行った。</p> <p><委員></p> <p>自転車駐車場について、モノレール沿線、西武線沿線の現在の不足状況は把握しているか。また、資料4、重点整備地区④武蔵砂</p>

川駅北側地区について、整備広場の周辺に都施行の都市計画道路があるが、今後の都の計画との整合を図っていくようお願いしたい。歩道整備予定箇所には鉄道保守用の駐車場があるので、今後調整をお願いしたい。

<事務局>

市内全体の自転車乗り入れ台数は約 13,000 台程度で、ここ数年では横ばいまたは若干の減少となっている。乗り入れに対し、自転車駐車場のキャパシティについては、断面調査によると需要と供給のバランスは保たれており、立川駅周辺の自転車駐車場の新規整備は、ほぼ見通しが立ったと考えている。一方で、モノレール沿線、西武線沿線の駅周辺では、自転車の利用がかなり増えている状況が見られる。特に、玉川上水駅では、東大和市が自転車駐車場の有料化を始めたことから、ここ数か月、立川市側がパンク状態となっていることから、市も有料化に向け、本格的に検討を進める。また、武蔵砂川駅の自転車駐車場も特に一時利用が増えているので、こちらでも対策を進める。

<事務局>

武蔵砂川駅の歩道について、出入り口の整備は、西武鉄道との打ち合わせの中で、課題としてお互い認識しているので、今後も継続して協議していきたい。

<事務局>

駅前広場は都市計画道路に隣接する形で計画している。事業認可の時期がいつになるかは、都から示されてはいないが、基本的には、武蔵砂川駅北口広場の北側に接続する形で計画している。都市計画道路立 3・3・3 号線新五日市街道については、西側から着工していく予定と都から聞いている。

<委員>

都市計画道路立 3・1・3 4 号線の整備はどの段階か。

<事務局>

立 3・1・3 4 号線についても優先整備路線に位置付けられており、都に対しても事業を促進するよう要請している。今回は短期計画期間の中間年における整理であり、中間年における施策を記している。

<会長>

短期計画の中には入らないということか。

<事務局>

都施行の立 3・3・3 0 号線と市施行の立 3・2・1 0 号線は密接に関係しており、立 3・3・3 0 号線については既に住民説明会を実施している段階であり、このような記載となっている。

<事務局>

優先整備路線の考え方については、平成 37 年までに少なくとも事業認可を取得する路線について選んだものだが、全ての路線を同時に着手するのは物理的に不可能である。そこで、選択と集中により時間軸で管理していくのが交通戦略である。立 3・3・34 号線については、まだその段階ではない。例えば、環境アセスメントだけでも 2～3 年はかかる。ただ、10 年という中期的な観点では、当然意識はしている。

<委員>

説明は理解したが、立 3・1・34 号線については、以前から課題となっている道路なので、重点的に整備を進めて頂きたい。

(2) 立川市総合都市交通戦略の施策の進捗状況および評価指標について、事務局より説明を行い、質疑応答を行った。

<事務局>

北口デッキエスカレーターについては、平成 30 年度予算に詳細設計の予算要望を行っており、平成 31 年度着工予定を目途に取り組んでいるところだが、財源の確保という大きな課題があり、国の補助制度の採択が得られるかなど、様々な問題を解決していかなければならないので、若干の遅延があるかもしれない。

<委員>

資料 2、施策の進捗状況の重点整備地区③旧庁舎周辺地区だが、市道 1 級 1 号線立川南通りのナビマークが分かりづらい。また、市道 1 級 5 号線やすらぎ通りの歩道が狭く、今後歩行者が増えた時に危ないのでは。

<事務局>

やすらぎ通りについては拡幅事業を行っており、歩道を含め、30 年度完了に向けて整備中である。立川南通りについては、病院側の歩道上空地を含め歩道が整備されている。

<事務局>

やすらぎ通りについては、既存が総幅員 7 m であったものを 6 m 拡幅し、車道 7 m、歩道及び自転車走行レーン 6 m の整備を行っている。市道 375 号線の南北の道路についても、この道路断面で整備を続けていきたい。

<委員>

成果指標について、周囲の道路が歩きやすいと感じている市民の割合という項目があるが、ユニバーサルデザインの文言を入れてはどうか。市民満足度調査を施策に反映させるこのやり方については、良いと思う。

<事務局>

市民満足度調査については、ひとつの見方、考え方として捉えていきたい。ユニバーサルデザインについては、交通戦略の基本方針の概念として、人口減少や高齢化との関連も盛り込まれている。今後も福祉部門の計画も参考に進めていきたい。

<事務局>

ご指摘の内容は、上位計画である交通マスタープランの中で一つの柱として盛り込まれており、アクションプランである戦略はそれらを踏まえているもの。

<会長>

ユニバーサルデザインの視点では、例えばノンステップバスやUDタクシーの台数、バリアフリー歩道の延長等、整備に関する数字はあると思うが、今回のアウトカム指標としては、公共交通機関の利便性に含まれると考えている。

<委員>

ハード面の整備が終わった後、例えば、点字ブロックの上に自転車を置かない等、市民の意識醸成まで踏み込んでいけたらよい。

<事務局>

バリアフリーの観点でのハード整備については、粛々と進めていくところであるが、今般、市では立川市障がいのある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例案を議会に提出する予定であり、心のバリアフリーといった市の理念、責務等が記されている。戦略ではハード面の整備といった部分にクローズアップしているが、市の施策としてはバリアフリー、ユニバーサルデザイン社会の構築を目指していきたい。

<委員>

資料3 成果指標、バス利用者数のくるりんバスについて、ルート変更を行ったにも関わらず利用者数が減少していることについては、どんな分析を行っているか。

<事務局>

くるりんバスについては、路線バスとの競合の解消、持続可能な財政負担、交通不便地域の解消といった観点で、平成28年9月に再編を行った。以前は立川駅方面や市役所を通る大きなルートだったが、ルート再編後は最寄駅にアクセスするルートに変更したため、数字だけを見ると減少していることは認識している。今でも地域説明会の中で、立川駅に向かうルートに戻してほしいといった声も頂くが、フィーダー交通としてのコンセプトの下、今後1年間の実証運行の延長が決まっていることから、その結果を分析していきたい。

	<p><事務局></p> <p>くるりんバスについては、時代背景として事業を拡大してきたが、財政負担については赤字が増加している状況だった。当初は、100円という安価な運賃で、ルートも路線バスと競合していた。そこで市は、運賃を180円に変更し、ルートについても収支率が3割を下回る路線は、廃止を含めた検討を行うといった改善策を公表し、その結果、5ルートうち2ルートは間引き運行をすることとなった。なお、平成28年9月のルート再編の結果、乗車人数は50%に減少している。</p> <p><委員></p> <p>利用者から見ると、料金抵抗というのは大きな要素だとは思いますが、事業の採算性についても良く検討していることが分かった。引き続き、市民の利便性と事業の採算性のバランスを取りながら進めていただきたい。</p> <p><会長></p> <p>東京2020大会の関連として案内サインの充実等を進めるとしているが、資料3の成果指標について、これは立川市民を対象とした調査なので、例えば来街者の満足度といった、来街者を対象とした指標もあったほうがいいのでは。</p> <p><事務局></p> <p>来街者の意識について、現在市で実施している調査では、来街者意向調査がある。これは、長期総合計画の策定のために5年に1度実施しているもので、平成32年度の次期基本計画策定にあっても実施すると聞いている。来街者調査は、街頭でのアンケート調査で、来街目的、交通手段等といった項目があるが、サイン計画に直接関連する項目はない。サイン計画では、利便性の向上として、どれだけ効果があったかという見方も重要になってくるが、現状では経年で追っていく調査はなく、課題と考えている。今後は、こういった来街者に対する調査を参考にしたい。</p> <p><副会長></p> <p>個別施策の評価と成果指標の設定は難しい部分もあるので、一つの参考としながらも、整備の指標と合わせてしっかり数字を出していくというのが重要である。</p> <p>3. その他</p> <p>立川警察署より交通安全情報の情報提供があった。</p> <p>4. 閉会</p>
担当	まちづくり部交通対策課交通企画係 電話 042-523-2111 (2279)